

館報 おかた

2019年1月1日現在
 世帯数：3,061 戸
 男：3,500 人
 女：3,622 人
 計：7,122 人



1月13日(日)岡田地区の新成人21名(男性9名、女性12名)が公民館に集い、来賓5名の同席のもと記念撮影を行いました。また、事前に以下のとおりアンケートをお願いしたところ、8名の方からお答えをいただきました。ご協力ありがとうございました。



- Q1** この20年で、一番心に残っていることは、何ですか？
Q2 10年後、あなたは何をしていると思いますか？

A
A1 この20年とても周りに恵まれていると感じ、ここまで育ててくれた両親に感謝しています。多くの人に支えられ、日々楽しいことばかりで選びきれません
A2 結婚し、子どもを生み、仕事もがんばりながら、元気に暮らしていると思います

B
A1 大学受験です。人生で一番今後の自分の将来に関わることでしたし、親とも先生ともぶつかりました。結果、今はとても楽しい大学生活を送れているし、周りにいて自分を支えてくれた全ての人に感謝しています
A2 将来は医療職について地元に戻り、地域の方々に支えられるようないいお姉さんになっていければと思います



C
A1 先生や友人と、時にはケンカしながら部活動の練習をしていたこと
A2 仕事が楽しく毎日笑顔で働きながら、今も仲の良い友人とたまに会って、一緒にお酒飲んでいそう

D
A1 辛くもあつたけれど楽しかった高校の部活です。大切な仲間にも出逢うことができました
A2 松本で自分の夢を叶えて続けていてほしいです

E
A1 この世に生を受けたこと
A2 教師

F
A1 全国高等学校総合文化祭
A2 ダンス教室を開校したい

G
A1 仕事の大変さ
A2 店をだして幸せな家庭を築きます

H
A1 沖縄・京都旅行
A2 仕事

新成人が生まれた 20年前のできごとは？

1998年4月
— 1999年3月



- ・映画「タイタニック」ブーム
- ・和歌山毒物カレー事件発生
- ・Windows 98発売
- ・明石海峡大橋が開通(全長3,911mで世界最長のつり橋)
- ・横浜高校の松坂大輔投手が、高校野球の決勝戦でノーヒットノーランを達成
- ・郵便番号7桁化





社会見学・軽井沢

岡田希望の家
 ～あかるく、たのしく、あきらめず～
 ●岡田町●

「岡田希望の家」は、昭和60年12月に岡田町に開所して、今年で33年目を迎えた就労継続支援B事業所です。

一般企業への就労が困難な障がいのある方々に、生産活動の機会提供、地域行事への参加や住民・ボランティアとの交流など、社会参加の機会提供をとおり、一人一人の自立生活支援を継続する施設です。

現在は男性12名、女性5名が通所しています。平均年齢が30

歳代前半なので、元気で活気があります。活動内容は、民間企業からの受託作業や、リサイクル事業、自主製品の製作・販売などで、収入は工賃として支払われます。自主製品には、手芸作品や藍・マリーゴールドなどを使用した草木染作品、刺し子などがあり、手作りならではの魅力がいっぱいです。

所長の栗幅さんは、「岡田希望の家は、『明るく楽しく、働く喜び、人に役立つ喜び』を合言葉に、地域に開かれた施設を目指しています。声をかけていただいたり、畑を耕していただいたり、地区の皆さまに日々あたたかく見守られていることに感謝です。障がいを持ちながらも個々の出来ることを生かし、ともに生き生きとした人生を送る。その一端を担えるような場所でありたいと思います。」と話され、「新聞 広報・ニュース・メディアに『私が出た!』が大好きな利用者さん方です。」と、快く取材にに応じてくださいました。

活動時間は、月曜日～金曜日の9時～15時30分です。ボランティア、製品の購入など、いつでもお気軽にお出かけくださいとのこと。

連絡先 0263・46・3320

(取材 竹内)

松岡町会 餅つき大会

12月2日(日)、松岡公民館では、農家組合との共催で餅つきが行われました。前日に公民館委員がといて浸してあった2斗の餅米は、杵でついて、8臼分の餅

になりました。つき上がった餅は次々に丸めて、きな粉ごま・あんこをまぶし、と大忙しです。新年のために早々と作った鏡餅は、冷凍保存にしました。張りきって、始まる1時間以上前にやってきた子どもたちもいました。



おいしいお餅ができますように

(取材 中本)

そもそも、山は私たちの生活に欠かせない薪や炭を生産する重要な役割を果たしている。

六助池の南側の山は、枯れた赤松が伐採され山の姿が大きく変わりました。山浦地区も同様に赤松林を伐採して雑木林に変えようとしています。

生活雑記
薪や炭のある生活
 山浦 K・N

くくなりました。そこで一番感じたのが薪の有難さでした。今のお風呂はお湯を入れると短時間のうちに入らないと冷めてしま

い追い炊きをする必要があります。薪はお湯を柔らかくして長時間風呂を楽しむことができます。毎日決まった時間に炭を足すと、いつ家に帰ってきていても温か

なりました。そこで一番感じない温かさを感じて、薪ストーブを新築の住宅に設置する人が増えていきます。一種の贅沢として捉えられています。が、こんなゆとりのある生活を送りたいと願いながら日々生活しています。



森林は私たちの暮らしに欠かせない「多面的機能」を有しています。私の住む山浦は、山林に囲まれ昔から山の恩恵を受けながら生活してきた地域です。

2年前に退職して、若い頃以来地元山に入ったことがなかったので久々に季節の山菜やキノコを採りに山に行きました。そこで驚いたのが、倒木が多く枯れた赤

煙が立ちのほり風呂の準備を始めたことが分かります。我が家も、昭和60年頃まで母屋とは別棟に風呂があり、毎日薪で風呂を焚いていました。その後母屋に風呂を移して灯油兼用の薪風呂に変え30年使用しましたが、6年前にその役目を終え使わ

がなくなりました。薪の調達や炭焼きは必要になります。平成の前半までは山からの恵みを生活に利用してました。山が荒れ多く赤松が枯れている現実にはエネルギー資源利用への警笛だと感じます。薪風呂や掘りごたつを知らない年代の人々が増え、良さを伝えてくれる人がいなくなる前に、見直す時期がきています。